

# マルセ太郎のエッセイ

## 難聴

僕は子どもの頃から耳が遠く、それが年と共に高じ、十年ほど前から補聴器を使っている。この補聴器というのが、期待したほど完璧には出来ていない。聞きたくない雑音はやたら大きく響くの、肝心のコトバが聞きとれない。劇場で、そばの人がいじる紙の音なんかは、神経がいらだつほど聞こえてくるが、役者のせりふが聞こえない。いや、音としては入ってくるのだが、コトバとして聞きとれないのだ。だから、周りで笑いが起こっても、なぜ笑ったのか分らないまま一人とり残されることになる。

もっとも僕の場合、病的に難聴というわけではないから、話す相手によつては補聴器を必要としない場合もある。よく仕事で御一緒にする永六輔さんとは、補聴器なしで十分に話すことが出来る。声の大小もあるが、発声の仕方にもよるのだからと思つ。

そんなわけだから、初対面の人と話すのが苦痛である。初めての人に、そつたびたび問いなおすことは出来ない。話の腰を折ることになる。それで適当に相づちを打つてごまかすのだが、ときには

相手に妙な顔をされることがある。質問されているのに、僕は「なるほど」なんて肯いているのだ。困るのは、聴覚が鈍感なため聞き下手になることである。話の本筋から外れたところで、ひよいと出る相手の言葉を聞きとれず、それに対して即妙に答えられない。相手が複数の場合なおさらである。その結果、自分がしゃべっている方が楽なので、一方的にしゃべることになる。これは僕のような職業の人間にとつて大いに欠陥だ。いつかテレビのトーク番組に出たことがあるが、やはり駄目だった。僕は人の話を聞くのに、ほとんど眼で聞いている。その表情から読みとるのだ。テレビの場合、大体が横に一列に並ぶ位置になつていているから、いちいち身を乗り出して発言者の顔をのぞき見なくてはならない。これでは聞きとるのに精一杯で、座談に加わることが出来ない。

よく眼のわるい（近視）人は、眼鏡を外すと色っぽいと言われる。女優では松坂慶子さんなんかそれで、男優でも昔は森雅之さんがそうだった。僕の周りにも、何人かそういう女性がいます。ところが耳のわるいのは、色っぽいとはいれない。昔のことだが、夏の夜、ある女性とドライブしたことがある。川の堤で車を停めた。開

けた窓から涼しい川風が入ってきた。星が出ていて、ちよつといいムードになった。彼女は小声で何かつぶやいた。こんなとき大声では話さないものである。それにこみ入った話なんかするわけがない。多分「川風って涼しいわね」ぐらいのことを言ったのだと思う。適当に相づちを打つか、黙つて聞きのがしても、どうつてことはなかったのだ。それを僕は、「ええっ？」と聞いた。彼女はやはり小声でくり返した。ああ、バカだな僕は。さらに「何だつて？」と聞き止めたのだ。彼女は、「もつといっ！」。ムードはぶちこわしで、車はＵターンしたのである。



## 発刊の辞

全国のマルセ太郎中毒患者の皆さん！お待たせいたしました。マルセ太郎の情報誌「さるさる」の発刊を高らかに宣言いたしました。合わせて、マルセ太郎中毒病にかかった全国のファンの交流をめぐして益々、この病が広まるように長く、元気につきあつてゆきましょう。

## 編集方針

マルセ太郎の情報しかでていない偏つた報道に心がけます。粘り強く定期的には発行いたします。

## 営業方針

不幸の手紙方式、ネズミ講方式、マルチ商法、靈感商法とありとあらゆる方法。よつて、転載、コピーはどしどしやつて下さい。

## 注意書き

内容に関して人にしゃべるのは自由ですが、責任は負いません。

## 投稿歓迎

パソコン通信できる人は E-Mail でお願いたします。

t-torajii@ra2.so-net.or.jp

ワープロできる方は FAX でおねがいたします。

03-3430-7531

広告募集 (5cm x 6cm)



## 問い合わせ先電話番号

0943 - 54 - 2233

セルフ蓮の実団地

商品名	価格(1本)	商品名	価格(1本)
健康茶(バラ) 500g	1,200円	煎茶粉茶(100g)	250円
健康茶(Tパク) 500g	1,200円	上煎茶(100g)	500円
乾燥ドクダミ(80g)	500円	上白折(100g)	500円
乾燥スギナ(60g)	500円	特上煎茶(100g)	700円
乾燥ピワの葉(120g)	500円	特上煎茶(100g)	1,000円
乾燥ヨモギ(70g)	500円	玉露自折(100g)	1,000円
乾燥カキの葉(130g)	500円	玉露(100g)	1,300円
からし高菜(250g)	350円	馬油(40g)	600円
ブルベリージャム300g	500円	烏油(70g)	1,000円

機関銃のようにしゃべる人(マルセライブより) 上田正勝さんの蓮の実団地より日本一おいしい八女茶をお届けします。

# ニユーヨーク物語

## 第三話

せっかくニユーヨークへ来たのだから本場のジャズを聴きに行こうということになった。東京へ来たあたり、日本酒好きな人も、あえずビールで乾杯するように、父と私はとりあえずブルーノートへ直行した。

これが大正解、とりあえずという言葉はすぐに撤回せよ。やはり本物は違う。その日の出演者がブルースの大御所、B・Bキング（以下B・B）だったということもあるが、店の雰囲気から何からこちらをたっぷりいい気分させてくれる。映画の撮影で来たニユーヨークだけれど、そこで眼にした光景そのものがまさしく映画のワンシーンのようだった。店に着いた時すでにライブは始まっていた。入り口で背の高い黒人の青年が私たちを見て、「へい、あんたたち、ショーが始まってもう二十分もたってるんだぜ。もつたいないから次の回にきて、初めから聴いていきなよ。」と声をかけてきた。どうやら夜九時、十一時の二回公演らしい。忠告は有難いが翌日は早朝撮影のためそれ程遅くはなれない。第一、私達は

B・Bが好きで来たのではなく（その証拠に父は日本へ帰ってきてライブでニユーヨークの話をした時、k・kキングのライブを観てきたと言いのけた。）とりあえずのブルーノートがメインで、しばかり雰囲気味わえればそれでいい。しかし、結局中に入ると満席で断わられ出直すことになった。声をかけてきた男は、「なっ、だから言ったろ。」という目をし

せびる。「お前にくれてやる金があったら俺は中に入って演奏に酔いしれてるさ」と怒鳴り返すあの彼がこの彼だったのだ。東京の半額とはいえ四十ドルという入場料を払える私達は恵まれているのだ。お金があつて入れるんだから二十分遅れてくるなんていうことは彼には信じがたいことだったのだろ。

翌日余裕をもって開演の一時



て肩をすくめた。寒空の下、窓から中を覗き込み、時々漏れてくるB・Bの歌声に体を合わせリズムをとっている彼を見て私はやっと気づいた。店員ではなかったのだ。父の好きなサウンドミッドナイトという映画を思い出す。パリのジャズ酒場の外、通気孔に耳をあてている青年にチンピラが金を

前に店へ行った。カウンター席に座るとトムクルーズばりの笑顔の素敵なバーテンが飲み物を聞いてきたのでコカ・コーラとマティーニを注文した。慣れた手つきでカクテルを作ると当然のように父の前にマティーニを私の前にコカ・コーラを置こうとした。父がカタコトの英語とボディランゲージで

「いや違うんだ。僕がコークで彼女がマティーニ」と言つと、彼は「えー、ほんまにい？」といった顔つきでニッコリ微笑んで持ったグラスをそのままに、腕を交差させてそれぞれの前に置いてくれた。「何ともいい表情（かお）をするじゃないか。気持ちがいいね。ああいう表情に外から来た者は救われるんだ。」と父はストローでコーラをすすり飲みながら上機嫌だ。

そしていよいよB・Bの登場。客は総立ち大拍手で彼を迎える。あつという間の一時半だった。もちろん合間のおしゃべりも格好いい。七十のおじいちゃんが恋の話をするんだものね。「いいな梨花は、聞き取れるのだから。」と父は、言葉が出来たらそのバーテンとも話せたいもつと楽しめた。だろつと残念がついてた。とはいえ二人とも十分その夜を満喫し、足どり軽く宿へ帰っていったのだ。タクシーから降りると、宿泊しているコンドミニアムの入り口でホームレスのおじさんが空き缶をゆすりながら、チエンジブリーズ」と私に目を合わせてきた。私はニッコリと、「ゲッドナイト！」とだけ言って中へ入った。後からついてきた父は何か重たい気分になったようで、「なあ、十ドルぐらいやったらどうだ。」とボソツと言った。「いいんだ

よ。お金をあげたところで何も解決しないんだから」とわかつた風な口をきく私に聞こえるか聞こえないかわらないの声で父はつぶやいた。

「こついつ時B・Bさんならどうするだろう。」私は黙ってエレベーターのボタンを押した。

（梨花）

\* マルセ太郎は昨年1月映画の撮影で日間ニユーヨークへ滞在した。

## 七ツ寺演劇情報センター

古本や

# 猫飛横丁

〒460 名古屋市中区大須2丁目28-12

TEL/FAX 052-221-1318

創り手と観客を結ぶ

演劇・芸能関連書  
いろいろあります

# 花咲く公演

## 各地主催者の顔・顔

みやあらく座

村田千晴



先日、永六輔さんが富山にいらっしやいました。御多忙のあいまに面会がかな

い、少しお話をいたしました。永さんとは初対面でしたが、とても気さくな方でした。初対面の印象は、「顔が大きい！」お体も立派で恰幅が良いのですが、どーしてもお顔の存在感に圧倒されます。といっても、こわいではなく、とても柔和なのです。まあ、お人柄がにじんでいるのですね。永さんは、富山の皆さんに対して「マルセをよろしく」とおっしゃってました。(後日八ガキが届きました。簡潔明瞭で実に味わいのある八ガキです)富山のマルセファンの皆さん、永さんに応えましょう。1997.4.13(日)富山公演決定しています。会場は200名収容の教育文化会館。富山においては、これまでの公演同様「みやあらく座」の会員の皆さんを中心に、「友達の友達は友達作戦」を展開します。演劇関係の皆様、教育関係の皆様、福祉関係の皆様、「文化人」関係の皆様、「エライ」関係の皆様、

様、「フツ」関係の皆様、御協力をお願いします。

只今ボランティア・スタッフ募集中です。ボランティアの最大のメリットは公演終了後、キヤスト・スタッフの方々とともに、打ち上げに参加できることです。マルセさんや、多くの役者さんと酒が飲める(マルセさんはウーロン茶)という楽しみを糧に、頑張りましょう。教文を満席に

「この人、やっぱり酒がないとアカンのやね。」

芸人を目指す若い人には「笑いに直結する軽いものでなく、重いものを読んで、理論的にものを考えられるようにしなさい」と言います。

笑いや面白さと対極にある硬い話がヒントになるから。

### 無名人

「マルセ太郎」

### 有名人語録

一般的に見ればダメな奴、くだらない奴かもしれないよ、でもくだらない奴ってきめつけたら、そこに笑いは生まれません。

悔しいこと？ありますよ。今頃になって、女の人たちがいっぱい寄ってくる。もったいないねえ...。どうしても早く、ぼくが若いときに来てくれなかつたの、と一人一人に話したいです。

## 広島マルセ中毒の会

広島池田さん



「なんせ、広島はマルセ中毒患者の会発祥の地じゃけーのー」

後から、感染したあんたらー尊敬せにやいけんよー」

(広島で大きな市民参加の芝居を成功させた実力者です。)

## 仙台命の電話

マルセ太郎通信ありがとございます。楽しく拝見。山田監督との出会い、今後が楽しみです。ね。再発がみつきり入院治療されたとのこと、あの「痛エーの痛くねえのって！」というアルコール注入法だったんでしょか。大変だったことでしょうね。

先日のNHKテレビ、永六輔さん司会の番組でマルセさんの出演シーンをみました。

病氣即不幸と思うのは偏見、どんななかにも喜びがある

東京人はきどつてる、大阪人は本音で生きている。

「あんさん、ぶつちやけたはなし、こつゆうことですしやろ！」

僕は、そういう大阪が嫌いです。

ぼくは、マストロヤンニが好きだ。

マストロヤンニの人柄ではなく、する役が好きなのだ。あんな風に、いいかげんに女にもてたい！

笑わせたい、笑わせるだけでなく、感動させたい。

純米酒専科

# 真酒亭

社 村田千晴

930 蕨山市桜町2丁目6-20

☎(0764)41-0399  
17:00~22:00(日・祝)

食文化といひます  
作家・文人と國樂の  
花を咲かせて下さい



## 康々亭

本日はどうもありがとうございました  
またのお越しをおまちしています

営業時間 AM11:00~PM2:00 日曜日オール営業  
PM 5:00~PM9:00 月曜日 休業

瀬戸市西原町1の1 TEL 84-6644

# マルセ太郎様インタ

## ビュー掲載号のお知らせ

財団法人国民栄養協会  
出版局「食生活」

編集部担当清原修志

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。わたくしは創刊91年に及ぶ長寿雑誌「食生活」という雑誌の編集をやっております。清原と申します。マルセさんのファンです。その昔マルセさんが出演した「シナド・シテイ・ブルース」も見ました。弊誌は、主に栄養士さん、あるいはそれを目指す学生さんを対象とした雑誌です。食と栄養、健康に関する専門的、最新の知識を読者の方々にわかりやすく、読みやすくお伝えすること、人々の健康への願いに便乗したような怪しげな情報を載せないことをモットーにしているため、栄養士だけでなく一般の読者も大勢おります。わたくしは95年12月22日の朝日新聞夕刊でマルセさんががんに冒されていることを知り、胸のつづれる思いでした。しかしそれでも公演を続けているとその記事にあり、その強い意思に感銘を覚えしました。最近わたくしは弊誌のカラーインタビューページを担当することになりました。このページ

は栄養士や調理士、料理研究家など、食に直接関わりのある人を対象としたページなのですが、栄養士は病院や介護の現場でがん患者と接する機会が多く、マルセさんの話しはきくと参考になるはずだ、と強引にマルセさんのインタビューを決めてしまいました。

インタビューは1月10日に行ないました。お話しは今野さんのストリップがかららないため2時間以上に及んでしまいました。その中から、がん発生から今までの経緯、「怪しげな健康食品や治療法に対する怒り」「生と死に対する哲学」の部分を抜きだし、3ページにまとめさせていただきました。掲載誌「食生活」97年4月号は3月10日書店で販売になります。掲載ページは6ページから8ページです。もし貴誌「ささる」あるいはファンのネットワークを通じてこのインタビュー掲載の情報がマルセさんのファンの知るところとなればと思い厚かましくもFAXをお送りした次第です。どうぞよろしくお願い申し上げます。敬具 お近くの書店で取り次いでいない場合も注文で取り寄せられます。

〒173 東京都板橋区板橋1-35-9 Mビル  
2F ネットワーク出版社内 TEL03-5375-9617  
9355FAX03-5375-9617

# 「聖人、席話、勝読十年書」

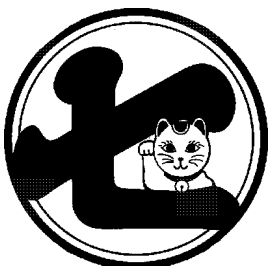
周 潔塵

その日、冬の米沢では珍しくいい天気でした。その日米沢の駅で新幹線で東京からいらっしやるマルセ太郎さんと会いました。夜、川西町フレンドリープラザでマルセ太郎の公演が行われるそうです。周 潔塵 日本に住んでもうそろそろ一年ですが、日本人の有名な人と会って話をするのは初めてです。また、現場で日本人の芸人の「なま芸」を見るのも初めてです。マルセ太郎という芸人はどんな人でしょうか。ただ一人で語る芸とは？ まだまだ、日本語が不自由な私には分かるでしょうか。ワクワク、ドキドキ。マルセさんと会いました。一緒に迎えに行った車に乗って、駅から一〇キロ離れた川西町へ行きました。二〇分位の距離でした。マルセさんはあまり話さなかった。ただ、質問した時は簡単に少ない言葉で返事しました。普通の、ちょっと変な、きびしいおじさんだと思いました。マルセさんと再会したのは三時間あとのことでした。公演が始まる前に観客にチラシを配って、終わって私も劇場に入りました。まもなくマルセさんは舞台上に現れました。第一部「寄席芸特集」です。涙がでるほど、おなか痛いほど笑いながら、自分は

何回も何回も自分に聞きました。「この人は本当にさつき会ったあのおじさんですか？」あのおじさんの姿はもう、なかなか思い出せません。目の前の舞台にいるのは、鳥をまねると鳥みたい、猿をまねると猿みたい、そんな人です。「スクリーンのない映画館・泥の河」が終わった時、自分はこの国の人？ ここはどこ？ 今ここで何をしている？ もうぜんぜん分かりません。ただ、「きつちゃん、お化けや、きつちゃん、きつちゃん、お化けが後ろにいてエ」と必死に叫びながら、だんだん遠い所に去って行く英雄の音が耳に響いているだけです。中国で「聖人、席話、勝読十年書」ということわざがあります。意味は、すばらしい人のちよつとした話は、十年間の勉強よりもっと役に立つ、ということ。ただ二時間、マルセさん一人で、言葉で、体で語ることから、人生について、前はぜんぜん考えなかった、たくさんのことを考えて悟りました。公演のあとも気軽な雑談から、超洞察力と観察力を持っているマルセさんへのイメージも変わった。国が違っても、言葉は違っても、同じ人間として喜怒哀楽は同じです。私は異国で、自分なりの生き方を探している時、マルセさんという芸人の芸能を見て、きつと影響があると信じています。マルセさんおおきに。



名古屋の木の実 パパと女将  
七つ寺公演後の打ち上げ場所



SINCE 1972

名古屋の小劇場といえばココ

マルセ太郎さんの常打ち小屋

## 七つ寺共同スタジオ

〒460 名古屋市中区大須2丁目27-20

TEL/FAX 052-221-8646

# 病棟日誌

ここは、ファンとの交流の

広場です。どしどし投稿を  
お願いいたします。

## 「門前払い」

安達原 智彦

一ヶ月に一度の「ブランク」通いをするようになってから、私はマルセ太郎の卓越した話芸が持つ不思議な魅力に、無条件でのめり込み始めていた。次々と繰り出される言葉の面白さ、そして全体が動いて表現の手段となり、独自の世界を創り出して行く。時にはその一つ一つが、あたかも私の頭の芯にグイグイ刷り込まれて来るように感じることすらあった。

また、こんな凄い芸の持ち主がいたんだなということに対する驚きも、やはり非常に大きかった。

この頃はまた、映画を一本丸々語りきってしまうというネタは登場していないのだけれど、たとえば演劇の『シラノ・ド・ベルジュラック』を部分的に一人で演じてみせるといった、後にマルセさんの『至芸』へと発展していく核にいたのだ。しかも私の目の前で、

せつかく来たのだから、とにか

くマルセ太郎を観たいんだと何度頼んでも、その答は「どうしてもダメ」である。満員で入れないから絶対に無理だと言う。

啞然……………。劇場から締め

出された私は、ただスゴスゴと退散をきめこむしかない。一体全体、どうなってるんだい、こりゃ。誰か分かるように、ちゃんと説明してくれよ。なんだから、キツネにつままれたような気分だった。今思えば、私がジャンジャンからケンもホロ口口に追い返される一方で、その客席が満員の観客で埋め尽くされたあの夜こそ、マルセ太郎の芸がその後多くの人々の強い支持を集め、全国各地へと拡がって行くきっかけとなった、記念すべき瞬間だったのである。ところが、その大きな変化にまったく気が付かないままに、予約なしでノコノコ出向いて行った私は、ものの見事にそれを見逃してしまったのだ。何たる不覚！ 勿論その時の私には、そんなことを理解できるはずもない。ジャン・ジャンを出た私は、その時一体何が起こったのかも分からないまま、夜の渋谷の街をただ一人アホのように「手ぶら」で帰っていった。

しかしこの日の出来事も、どうやら私にとっては、決して忘れられないことの一つになってしまったようだった。

## 「コスモスの所有者 マルセ太郎」

安藤恵美子

手帳の日付のどこかに「マルセ・ライブの日」と書き込む瞬間から、私の心はムクムクと胸躍る期待に埋め尽くされてくる。(ホントに嬉しい気持ちになるのだ!) 私にとって、マルセ太郎の芸の魅力とは、より複雑に深刻になっている「現代」を身近な事柄を題材にすることによって、一体何が問題なのかを、みずから実感を伴ったかたちで教えてくれるというところにある。黒沢映画「生きる」を演じたマルセ太郎は、自分の闘病記を語り、人間にとつての永遠のテーマである「死」に光をあてることで、その逆光の中に「生の意味」を浮かび上がらせることを目的とし、自分が「死」を何と考えるかということ、そして「生」に対しての真摯な態度を舞台上で、力強く、そしてノビノビと屈託なく表現してくれたのだ。この舞台には、マルセ太郎の哲学が強調されているように思え、嬉しさがこみあげてきた次第である。マルセ太郎にかかれれば、テーマ自体が持つ乾いた暗いイメージなどは即一蹴されてしま

う。そして独特の潤いのある豊かなマルセワールドに転換される瞬間、我々はこらえきれずに大笑いし、涙さえ流しているのである。(というわけで、翌日は必ず声が思いつきり洩れているという事態になる訳である?)

マルセワールドは、一方通行にメッセージを送るばかりではない。それはマルセ太郎が観客を対等に扱うという、「共生」の姿勢に込められている。マルセワールドに入り込んだ我々観客の側には、実はいろいろなことが任され、観終わつた後には、「何ごとも能動的に考えて行く意欲が湧いてくる」、という動機づけが成されていることに気がつく人も多いはずである。ものごとの本質を捉え、一緒に考える機会をあたえてくれる芸に、我々の心は不思議と解き放たれる、これこそが、多くの人がマルセ太郎に共感する所以なのだろう。だからこそ、「マルセ・ライブの日」と今夜も手帳に書き込みながら、来月のその日を待ち遠しく思う私が、またもいるのである。 以上

(追記)タイトル「コスモスの所有者」とは、高村光太郎が宮沢賢治について書いた著述のタイトルです。マルセさんについて書くのにあたり、どうしてもこの表現を使いたく、掲げた次第です。

### 陶器の表札

NHK・BS放送、ドキュメンタリーで放映されたマルセ太郎宅の表札と同じ焼き物の(陶器)表札をお作りいたします。

本場の瀬戸市で職人がひとつ、ひとつ丁寧にお作りいたします。あなたのお宅もマルセ太郎さんと同じ表札をかけて見ませんか。尚、手作りのため数週間かかります。

ご注文は、大きさと名前を書いてFAXでお願いいたします。

料金、その他お問い合わせは 0561-84-6644



新築・引っ越し等のお祝いにもってこいの贈り物全部てづくり職人の業がひかる逸品

ご注文：康々亭

FAX 0561-84-9696

## 今野 誠 マネージャー日記



## 第二回 「はじめてあった頃」

## 思い出日記

今野 誠

私とマルセさんが初めて会ったのは、いつだったろうか。

一九六七年のある夜、当時、牧伸二司会で売れたNETテレビ(10ch)「東急文化寄席」に出演で、私は控室に居た。ある男が私に「今野さん、前に話したマルセさんが来てますので紹介します。来て下さい」と、私は廊下ロビーのソファアに居たマルセさんのところへ行く。「マルセさん、こちらが今野さんです」と紹介されて「今野です」「マルセです」。この時はそれだけの会話で終わった。

これが二人の出会いだが、それから何十年の交際が、私にとつて忘れ得ぬ人になるうとは、夢にも思わなかった。縁とは不思議なものである。只、この時の紹介した男が、いくら考えてもタレントかマネージャーなのか映像が浮かば

ない。気にはなるがどうしようも無い。

それから間もなく私の所属する事務所にマルセさんが入った。これが縁の始まりで言葉之交わすようになり、当時、仕事はキャバレー全盛時代で、九州は博多の大きなキャバレーにマルセさんと一緒に三日間出演したこともある。

ショーは、マルセ太郎の形態漫談から私たちのコミックバンドになって、中にマルセさんが出て、椅子の上に得意のサルのポーズからピョンと前足(腕)から飛び降りて、交互に歩き出す。見た目は簡単なようだが出来る訳が無い。この芸を全く感心する程自然にやるのだ。これを客に演ってもらうのだが、勿論出来る訳が無い。客が出ない時は、じゃあリーダーのコンチャンにと私にくる。ひよっとしたら出来るのではと思うが、椅子に乗るともう動けない、ウロウロする様が面白いので爆笑になる。マルセさんが再びこの芸を見せてそのまま退場、客席から大拍手のショーだった。先日、この事を思いだしマルセさんに言ったら、「あの頃は、若いから出来たんだよ、もう、無理だ」と言っ。あの芸はビデオに残って無いだろうか。是非とも見たいものだ。



## 七十二才のアイドル

矢野陽子

今から三年と三月月前、マルセカンパニー第一弾「黄昏に踊る」の時、今野誠さんはそう、確かに、紛れもなくマルセさんの山形弁でしゃべるマネージャーだった。そして、「一年後の第二弾」つるかめ荘は今日もワルツ」では舞台に出て、おだんごを食べ、サクスを吹き、入れ歯を落とし、セリフをしゃべっていた。芝居を観に来た役者仲間は一様にのけぞり叫んだ。「あの人は何!」「どこの出身!」「わあ、すごい、リアルだア!」そしてわたしが、マルセさんのマネージャーと答えるとまた一様に頭を抱え、わたしたちが今までやって来たことは何だったの?」「スタニスラフスキー・シテムは?」「果ては、ああ、新劇はダメだ、役者やめたくなっちゃったア!」であった。そして皆、山形弁の今野さんを好きになった。去年の一月五日からのマ

ルセカンパニー第三弾 枯れない人々」の今野さんは家裁の調停委員の役で、膨大なセリフ、それも専門用語の山だった。それまでも稽古初日にちゃんとした台本が出来上がっていた事はなく、枯れない人々」でも御多分にもれず、毎日マルセさんが何ページか書いて来て、それをコピーし、稽古するという日々。ああ、でも、何故か、今野さんが四苦八苦してセリフと格闘しているのに、マルセさんは無情にも今野さんのセリフをどんどん書いてくる。マルセさんが原稿用紙に向かうと、きつと目の前に今野さんにしゃべらせたいセリフがどんどん湧いてくるのだらう。だから翌日セリフがふえてしまふという寸法、今野さんはセリフ漬の悲惨なお正月を過ごしたと思うが新春公演は大成功だった。去年九月の第四弾「真夏の夜の哀しみ」では今野さんが舞台上に登場すると笑いと拍手が起るようになった。今やマルセカンパニー七十二才のアイドルである。それにしてもマルセさんはすごい!今野さんを舞台に押し出し、あんなに楽しく、おかしな芝居を書き、演出するのだから。わたしだって「よおし」って思ってしまった。マルセカンパニーの皆も今野さんに太刀打ちできる戦法を考えているに違いない。第五弾「花咲く家の物語」が今からとても楽しみ、秘策を練っておこす

# マルセ太郎通信

本日(26)朝日マリオンにて山田洋次「息子」の公演を行います。(主催:さくらカード)さくらカードのお座敷は今回で3回目です。会場に、山田洋次監督が来ておりました。マルセさんが案内を出したようです。主催者が挨拶をお願いしたところ快諾されて公演前に挨拶をされました。以下、その要旨です。

「私も、マルセ太郎さんの舞台を見るのは今回がはじめてです。マルセ太郎さんの舞台の方が感動的に決まっているので、なんだかこわいような気がいたします。映画でこんなに感動的だった方になって、こんなに感動的だったかと、お思いになるでしょうし、帰ってからビデオレンタルでご覧になる方は、何だこんな映画かとお思いになるでしょうし。いずれにしても映画をこんな風語っていたことは大変嬉しいことでもあります。私もこれからみなさんと一緒にマルセ太郎さんの舞台を楽しみたいとおもいます。」

公演中、山田監督は回りに迷惑になるほど大声で笑っていたそうです。終演後、楽屋で30分間近くもマルセさんと話をしていたかれました。近くにいませんでしたので話の中身はわかりませんが、話の中心はわかりませんが、ときられることなく話ははずんでいたようです。ただ、マルセさんは耳がとおいし、山田監督はボンボンしゃべる人なので話がとんちんかんになるんじゃないかと心配いたしました。

マルセさんに聞くと  
「やっぱり、山田監督はインテリやな。」  
「僕より、2、3年上なのにわかかわい。」

昨年からの流れではいつか山田監督とは縁が出来るとは思っておりましたが、こんなに早く機会が訪れるとは思いませんでした。

ひよつとすると、今年中にも山田映画でスクリーンでのマルセ太郎を見ることが出来るかもしれませぬ。

でいたようです。ただ、マルセさんは耳がとおいし、山田監督はボンボンしゃべる人なので話がとんちんかんになるんじゃないかと心配いたしました。

マルセさんに聞くと  
「やっぱり、山田監督はインテリやな。」  
「僕より、2、3年上なのにわかかわい。」

昨年からの流れではいつか山田監督とは縁が出来るとは思っておりましたが、こんなに早く機会が訪れるとは思いませんでした。

ひよつとすると、今年中にも山田映画でスクリーンでのマルセ太郎を見ることが出来るかもしれませぬ。

**再発と治療** 昨年、1センチの再発が見つかり1月に入院治療を受けました。退院後、すぐに公演があつてちよつとしんどかつたみたいですが、顔色もよく元気な様子です。抗ガン剤がまだ少し残っていて気持ちが悪かったのですが、現在では元気な舞台をつとめています。

「とにかく、芝居の本や、うーっ！」

**西武の堤清二氏 マルセ太郎を語る**

信濃毎日(一・二五夕刊)「今日の視角」でマルセの以下の言葉に共感したとのコラムが掲載された。「僕の価値基準は卑しいか卑

しくないか、それしかないんです。保守も革新も関係ない。品があるか下品かね。」

堤氏はこれを受けて  
「日本人には潔癖なところと曖昧なところがあつて、この混ざり具合で品格のある時代と卑しい時代が分類されてきたように思う。もう少し細かく言えば潔癖が基盤になつての曖昧さと、曖昧さが基盤になつての潔癖さとは品格が違うのである。現在は残念ながら後者の時代で、曖昧大流行といった感がある。」

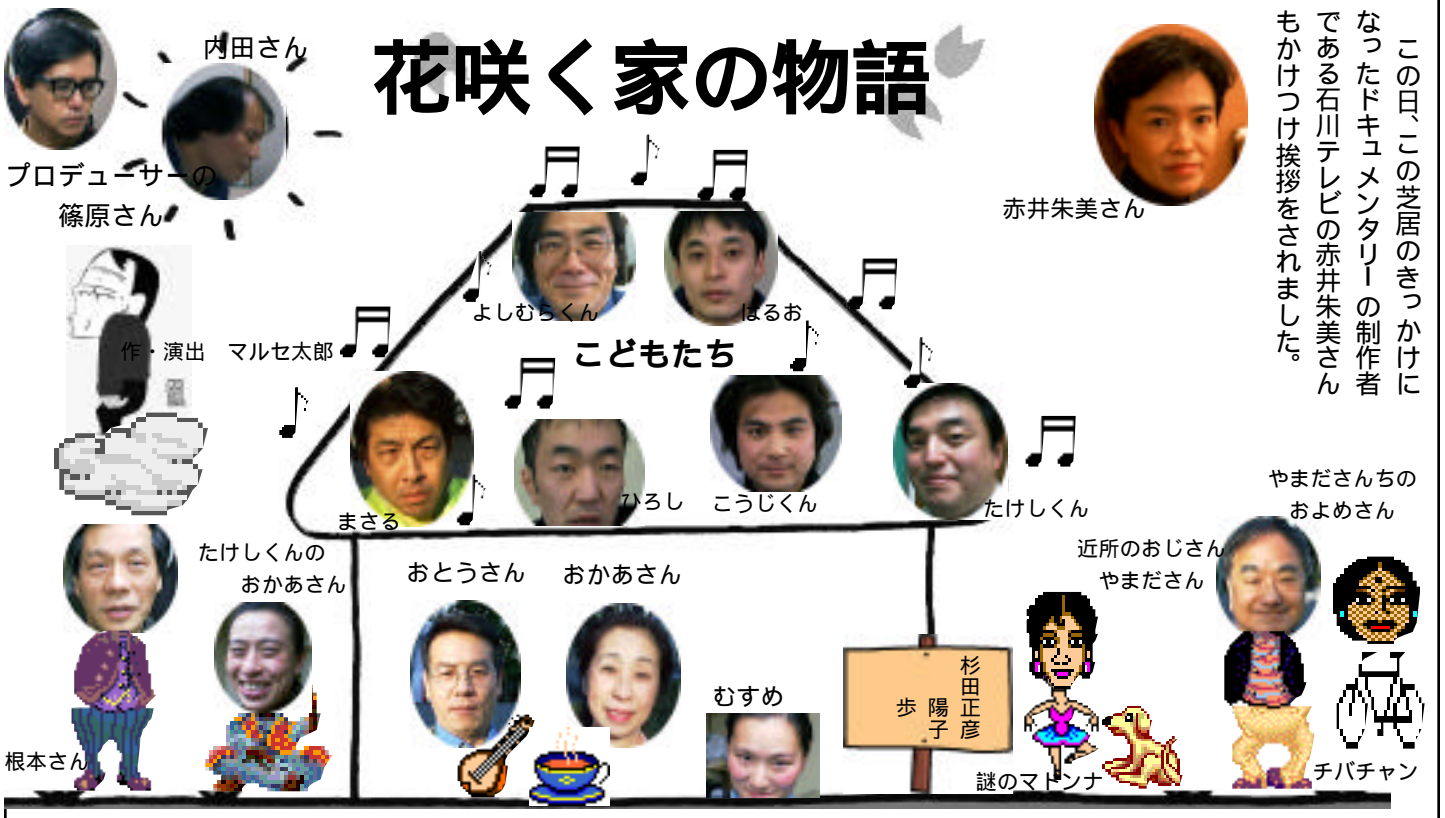
「日本人には潔癖なところと曖昧なところがあつて、この混ざり具合で品格のある時代と卑しい時代が分類されてきたように思う。もう少し細かく言えば潔癖が基盤になつての曖昧さと、曖昧さが基盤になつての潔癖さとは品格が違うのである。現在は残念ながら後者の時代で、曖昧大流行といった感がある。」

**渋谷じゃんじゃん**「マルセ太郎の動物ネタ」2月18・19  
初日は、前日にひいた風邪のせいもあつて本人はあまり満足していなかった模様。マルセ太郎流完璧主義もありますよ。2日目は、大いに受け、本人も満足しております。

**「花咲く家の物語」スタッフ・出演者** 初顔合わせ(2/20)  
マルセ太郎所属事務所人力舎にて、顔合わせが行われました。いよいよ、芝居のスタートです。第一幕の台本が配られ、さっそく読み合わせが行われました。一人一人の人物についてマルセさんから性格をエピソードを交えながら話があり、緊張した雰囲気の中で稽古がスタートしました。

この日、この芝居のきっかけになったドキュメンタリーの制作者である石川テレビの赤井朱美さんもかけつけ挨拶をされました。

## 花咲く家の物語





# さるさる

発行：スタジオ Be フリー

編集責任者 立木 寛児

〒201 東京都狛江市岩戸北1-7-9

協力：(株)プロダクション人力舎

## シニア料金

映画ほど安上がりの娯楽はない  
と思う。

いつまでもなく、人間はたった一度の人生しか生きられない。おれにはもつと別の生き方があったのではないかと思っても、やり直しが不可能である。それを映画は、二時間ほどの時間に限ってはあがるが、別の人生を体験させてくれると言えるのではないか。

こんな楽しいことが、たったの千八百円。もつとも僕などシニア料金(六十歳以上)だから、千円である。有難いと思ってる。

始めのうちこのことを知らなかった。いまでも僕の周りでは知らない人が多い。人に聞いて、多分少気がひける思いでチケット売場に立ち、小声で、「シニア」と言ったら、無造作にチケットを出されたときは、ガツカリした。「免許証か何かお持ちですか」と訊かれたら、僕は嬉々として運転免許証を示しただろう。

は、こと細かに料金が掲示されている。大人、学生、子ども料金はもとより、中学生料金まであるのだ。なのにシニアは書かれていない。もしかして、地方によってはないところもあるのかと、恐れながら、「シニア料金は無いんですか」と聞いたら、無愛想に引き出しを開けてチケットを出してくれただ。それと知らない客には従来通り千八百円もらうておこうという計算なら、これまた貧しいことである。

東京では昔から有名な、売れ筋ではなくとも、ヨーロッパやアジアの名画を長期にわたって上映している映画館がある。場内で飲食する客は一人もいない、落ちついた雰囲気好きな映画館である。ここにはシニア料金は無い。だってここは、いつも客の半分はシニアなのだから。

### 《公演会場》

#### 「花咲く家の物語」

4月12日(土)

金沢市 文化ホール

主催・石川テレビ

TEL.0762-63-1566

4月13日(日)

富山県 教育文化会館

問い合わせ みゃあらく座

TEL.0764-41-0399

4月14日(月)

福井県 県民会館

問い合わせ 人形と語り座

TEL.0776-33-7447

4月23~27日

東京芸術劇場小ホール

問い合わせ 人力舎

TEL.03-5378-0211

5月8日(木)

栄・名古屋市芸術創造センター

問い合わせ

TEL.052-202-1339

052-221-1318

5月10日(土)

大阪 近鉄小劇場

問い合わせ TEL.06-771-1009

5月11日(日)

広島 県民文化センター

広島マルセ中毒患者の会

TEL.082-291-7615



マルセ太郎の住む狛江の小劇場

100人の顔の見える小劇場

音響・照明完備・映像設備有り

ライブ・催し物 格安にて

TEL: 03-3430-7328

FAX: 03-3430-7531

E-mail: t-toraji@ra2.so-net.or.jp

マルセ太郎の公演のご相談は



山崎時ち  
内田直樹

内田事務所 ● 甲151 東京都渋谷区代々木2-19-3 野崎荘101

PHONE (03)3378-6458 FAX (03)3378-6582

マルセ太郎の常宿



「芸人魂」・各部屋に完備

金沢市菊川1-1-8

TEL0762 (21) 4772